

平成29年度  
北海道立総合博物館協議会  
アイヌ民族文化研究センター専門部会  
議事録

日時：平成29年11月16日（木）

13時30分 開会

場所：北海道博物館 講堂

平成 29 年度 北海道立総合博物館協議会  
アイヌ民族文化研究センター専門部会議事録

会 議 名	平成 29 年度北海道立総合博物館協議会 アイヌ民族文化研究センター専門部会
開催日時	平成 29 年 11 月 16 日（木） 13 時 30 分～15 時
開催場所	北海道博物館 講堂
出席委員	澤田一憲部会長、大島稔委員、児島恭子委員、酒井奈々子委員、 関根真紀委員、中村吉雄委員

※・単なる相づち及び言い直しなどは、原則として割愛する。

・丸括弧で補足的な説明を記した。

・内容に応じて《意見・提案》、《質疑応答》等の見出しを便宜的に作成した。

目 次

1	開会	1
2	館長あいさつ	1
	《資料確認》	2
3	アイヌ民族文化研究センター専門部会特別委員紹介	2
	《出席状況確認》	2
	《事務局ならびに本庁の出席者の紹介》	2
	《協議会の公開について》	2
4	部会長あいさつ	2
5	議題	3
	議題（1）報告事項 1 平成 29 年度第 1 回北海道立総合博物館協議会（中間外部評価） の結果について	3
	議題（2）報告事項 2 アイヌ民族文化研究センター平成 28 年度事業実績及び平成 29 年度 計画について	3
	《意見 1 「行事あんない」等における表記の問題について》	4
	《質疑応答 1 子ども向けのアイヌ語講座について》	5
	《質疑応答 2 資料の収集・整備について》	6
	《質疑応答 3 ガバナンスについて》	8
	《質疑応答 4 国立アイヌ民族博物館との連携について》	9
	議題（3）今後のスケジュールについて	10
	議題（4）その他	10
	《意見要望 1 小嶋コレクションについて》	10
6	閉会	11

## 1 開会

**右代学芸主幹**：皆様揃いましたので、平成 29 年度北海道立総合博物館協議会アイヌ民族文化研究センター専門部会を開催したいと思います。よろしくどうぞお願いいたします。開会にあたり館長の石森からご挨拶を申し上げます。

## 2 館長あいさつ

**石森館長**：石森でございます。皆様方におかれまして本当にお忙しい中をご参集賜りましたこと、厚く御礼を申し上げます。ただ今、知事から預かっておりました辞令を手交させていただきました。この北海道立総合博物館協議会は条例に基づくもので、位置付けとしては知事の附属機関でございます。2015 年 4 月に道立アイヌ民族文化研究センターが北海道開拓記念館と統合されたわけでございますけれども、知事の強い思いといたしまして、是非とも北海道立アイヌ民族文化研究センターは伝統を生かして継続させたいということで、北海道博物館の中ではございますけれども、アイヌ民族文化研究センターという形で置いているものでございます。したがって、アイヌ民族文化研究センター専門部会は、この北海道博物館の中のアイヌ民族文化研究センターについての様々な活動につきまして、基本的には知事に対して、ご専門の立場で様々な意見をいただくということでございます。ただ知事もご多忙な方ですので事細かくすべてが知事に上がるわけではございませんけれども、それぞれの担当部署においてきちんと対応しないとイケない、そういう思い・位置付けでございますのでご理解をいただきたいと思います。

また、皆様も既にご存知のことと思いますが、今現在、調査を重ねているところでございますけれども、当館に所在する遺骨等の中に、アイヌの人びとのご遺骨と認めるべきものが 7 体あることが確認できましたので、11 月 13 日に当館におきまして慰霊行事を開催いたしました。その際に北海道アイヌ協会に様々な御支援をいただきましたし、また澤田委員におかれましてはご多用の中を祭司をお務めいただきまして、本当に素晴らしい形で行事を進めていただいたところでございます。澤田委員、本当にありがとうございました。

北海道博物館の中にアイヌ民族文化研究センターを設置するという形を取っておりますけれども、知事の思いとしてはこのアイヌ民族文化研究センターを非常に重んじておられますので、これまでと同様の様々な活動を続けると共に、もし各委員の皆様方より「新たなものを追加」ということもございましたら、ご遠慮なく意見をいただきたいと思います。ただ道財政も非常に厳しい状況もございますので、委員の皆様方のご意見がそのまま実現が右から左というわけにも、なかなかいかない面もありますけれども、皆様方のご意見を非常に重く受け止めて活動を進めてまいりたいと思っています。

特に来年の 2 月には、アイヌ民族文化研究センターが主導する形で、当館の企画テーマ展を考えているところでございます。「カムイとアイヌのものがたり」という題でございますけれども、北海道博物館に変わりましたアイヌ民族文化研究センターとしては初めての企画テーマ展でもございますので、皆様方にも様々な形でご支援をいただきながら、こ

の北海道博物館におけるアイヌ民族文化研究、そしてそれをより多くの方々により多く知らしめていくという活動に力を入れて参りたいと思いますので、何卒よろしくご意見を賜りましてそれを活かして行きたいと考えているところでございます。

本日、非常にお忙しい中ご参集賜りましたことを厚く御礼申し上げまして、どうぞご忌憚のないご意見を出していただきますようお願い申し上げます。本日は本当にありがとうございました。

#### 《資料確認》

**右代学芸主幹**：それでは配付資料の確認をさせていただきます。

〈以下、資料1～5ならびに参考資料1～5について確認〉

### 3 アイヌ民族文化研究センター専門部会特別委員紹介

**右代学芸主幹**：次に委員の紹介にいきたいと思っております。

〈以下、資料1-1「北海道立総合博物館協議会 委員名簿」ならびに資料1-2「北海道立総合博物館協議会アイヌ民族文化研究センター専門部会 特別委員名簿」に基づいて委員を紹介〉

#### 《出席状況確認》

**右代学芸主幹**：今回は委員が全員、専門部会にご出席いただきました。お忙しいなか、いろいろと御面倒をおかけしましたが、よろしくどうぞ御指導をお願いいたします。

専門部会の開催にあたっては出席についての規定はありませんが、北海道立総合博物館条例第25条第2項で「協議会は、委員の2分の1以上の出席が必要である」とあります。それに準じた形で、今回の専門部会についても成立していることを御報告いたします。

#### 《事務局ならびに本庁の出席者の紹介》

**右代学芸主幹**：続きまして事務局の御紹介をさせていただきます。

〈以下、資料1-1「平成29年度 第1回北海道立総合博物館協議会 事務局名簿」に基づいて出席者を紹介〉

#### 《協議会の公開について》

**右代学芸主幹**：本日の専門部会は、道の情報公開条例の規定により公開とさせていただくことになっておりますので、御了解いただければと思います。今現在誰も傍聴されていないということで御報告いたします。

### 4 部会長あいさつ

**右代学芸主幹**：先ほども若干説明いたしましたが、9月12日に第1回北海道立総合博物館

協議会を開催しております。その中で澤田委員、児島委員が協議会と本専門部会の委員を兼ねるということで承認されております。アイヌ民族文化研究センター専門部会につきましては、澤田委員が大原会長より部会長に指名されて承認されていることを御報告して、部会長ということで前の席に座っていただいております。部会長から、就任も含めて御挨拶をお願いしたいと思います。

**澤田部会長：**イランカラプテ。御指名を受けました澤田でございます。諸先輩いますが差し置いて部会長ということで大変恐縮しております。私としては結構荷が重いのですが、部会長ということで務めさせていただきます。なお本日につきましては議事の円滑な進行についての皆様の御協力をお願いいたしまして私の挨拶といたします。よろしくお願いいたします。

**右代学芸主幹：**専門部会の終了時間でございますが、概ね 15 時 30 分を予定しておりますので、よろしくお願いいたします。これからの議事進行につきましては、澤田部会長に進めていただきますので、部会長、どうぞよろしくお願いいたします。

## 5 議題

### 議題（1）報告事項 1 平成 29 年度第 1 回北海道立総合博物館協議会（中間外部評価）の結果について

**澤田部会長：**それでは、議題（1）「平成 29 年度第 1 回北海道立総合博物館協議会の報告」について、事務局から報告をお願いします。

**右代学芸主幹：**事務局から御報告いたします。

〈以下、資料 2-1 ならびに 2-2 に基づいて平成 29 年度第 1 回北海道立総合博物館協議会の概要を報告〉

**澤田部会長：**ただ今事務局から報告がありました議題（1）については、これは親会のことですので、事務局からの報告として終わらせていただきます。

### 議題（2）報告事項 2 アイヌ民族文化研究センター平成 28 年度事業実績及び平成 29 年度計画について

**澤田部会長：**次に議題（2）「アイヌ民族文化研究センター平成 28 年度事業実績及び平成 29 年度計画」について、事務局から続けて説明がございました。その後にとまとめて質疑応答とさせていただきます。事務局、御説明をお願いします。

**小川センター長：**それでは、アイヌ民族文化研究センターの平成 28 年度の事業実績と、それから平成 29 年度の事業計画につきまして、概略を御説明させていただきます。

〈以下、資料 3 ならびに 4 に基づいて、アイヌ民族文化研究センターの平成 28 年度事業実績ならびに平成 29 年度事業計画について説明〉

**澤田部会長**：ただ今の報告につきまして、皆さまからの御意見・御質問、お願いします。何か質問ありませんか。

《意見1 「行事あんない」等における表記の問題について》

**大島委員**：これから行われる企画テーマ展の「カムイとアイヌのものがたり」のところで、少し、説明の仕方と言いますか、表記の仕方の問題と言いますか、言葉の使い方の問題で2点あります。

**澤田部会長**：先生、ページ数をお願いします。

**大島委員**：資料4の平成29年度計画の12ページです。そこでの説明のところからまず行きますと、「地域差・個人差が多様なアイヌの世界観」とありますよね。世界観で個人差というのは、かなり独特な、少し矛盾するようなことで、2万人いたら2万人の世界観があるということになってしまうので、「個人差」という語はあまり「世界観」という言葉と馴染まない。あるいはアイヌの場合には特別にそういうことを考えなければいけないのか。川などの地域集団ごとの世界観が少し違っているというのはわかるのですが、「個人」となるとひとりひとりとなってしまう、これはどういう意図があるのか少しわからなかったもので、言葉としてももう少し検討したほうがいいということです。もうひとつ、「2017年度後期 行事あんない」の行事番号35、36、37の「アイヌ語講座」のところでは、これは宣伝文を短くしてしまったので、こうなったのでしょうか。仕方ないことですが、この「カムイとアイヌの物語」というのは、神々と人間のあいだの物語ということですよね？

**小川センター長**：必ずしも、それだけではないです。

**大島委員**：そうですか？平成29年度計画の12ページでは、展示会のタイトルが「カムイとアイヌの」で切って「ものがたり」となっているので、そう思ったのですが。それから、「アイヌの物語をアニメーションで」と言っているときの「アイヌ」は、「アイヌ民族の」という意味ですよね？

**小川センター長**：そうです。

**大島委員**：展示会タイトルでは、「アイヌ」という語を「人間」と言ってしまうのですが、同じ「アイヌ」という語は、外部から見ると「アイヌ民族」になってしまうので、説明文を短くしてしまうと区別がつかなくなるので、言葉の工夫をしないとまずいと思います。昔から、「カムイの物語」や「ユーカラ」というのは、「神々の物語」「英雄の物語」や「人間の物語」など、わざわざ日本語に訳しています。「アイヌの物語」というのは、「アイヌ民族の物語」という意味で使って、それ以外は日本語に訳してやっていたのです。そうできないと区別できないから、そういう工夫を少ししないとまずいということです。もうひとつは日本語の問題です。「アイヌ語講座」の紹介文にある「短いお話を2つずつ紹介します」というのは、この3つの連続のなかで2つずつという意味ですね？

**小川センター長**：はい、各回2つです。

**大島委員**：だから、この「ずつ」の使い方が違います。「2つずつ」と言った場合は、「神の話ひとつと人間の話ひとつで2つずつ」というような意味にしか取られないので。この「行事あんない」に載せるときに、おそらく元原稿で作った文を、コピペ、コピペとしたから、こうなったと思うのですが、「2つ」でいいのです。「ずつ」というと、そういう意味ではなく、別な意味になってしまう。子どもたちも読むので、できればきちんとわかりやすくしなければいけない。一番大変なのは、その「アイヌ民族の物語」という「アイヌの物語」と、それから「カムイとアイヌの物語」というときの「神と人間」の関係に関する物語というのを、どうやって工夫するかということです。少し工夫をしないと。それを先人がずっと工夫してきたのです。難しい問題だけれど、「アイヌ」という語に特有の問題なので、言葉遣いを少し気にされた方が、わかりやすくなると思います。

**澤田部会長**：これは、事務局から説明は要りますか？

**大島委員**：いいえ、いいです。

**澤田部会長**：では、要望ということでよろしくをお願いします。

#### 《質疑応答1 子ども向けのアイヌ語講座について》

**澤田部会長**：そのほか、質疑応答、何かありますか？

**関根委員**：はい。私は平取町で、二風谷アイヌ語教室というアイヌ語の教室で、毎週1回、木曜日に、6時から7時半まで、毎週20名ぐらいの子どもたちに教えています。一番下は小学校1年生から、一番上が高校2年生までの子たちに、いろんな教材を使って、アイヌ語を教えているのですけれども、せっかくなので、平成29年度に予定されている講座「見てみよう！ カムイとアイヌの物語」のように、アイヌ語のビデオを見せるだけでなく、講座みたいなのはできないのかなという思いがあります。私たちは、二風谷という小さいコミュニティのなかで子供たちを集めてやっているのですけれども、それでも夢は「将来アイヌ語の先生になりたい」という子どもたちも育っています。北海道博物館は、やはりアイヌ語のスペシャリストたちが揃っている施設なので、こういう大々的な建物のなかで、毎週ではなく年に何回かでも、カルタで遊んだりというアイヌ語講座を設けていただいて、それでいろいろな地域の子どもたちがアイヌ語に触れるようにしていただきたい。これからどんどん、アイヌ語が学校でも授業の取り組みに入れていただけて、普及されるよう、私は道の方に要望もしたいのですけれども、そういうなかで、その子どもたちが高校生になったときに、「アイヌ語を勉強しよう」と思う、そういう種を植えるという思いもあるので、ビデオを見せたりという、ちょっとしたものではなくて、1時間でもいいので、ぜひアイヌ語の講座を入れていただきたいと思っています。

**澤田部会長**：それは要望としてですか？

**関根委員**：要望と言いますか、「やることはありますか？」という質問でいいですか？

**澤田部会長**：では、お答え、お願いします。

**小川センター長**：たとえば今年度の事業計画ですと、「行事あんない」の行事番号30番に

「アイヌ語で遊ぼう」という講座を、1回だけですけれども、設けさせていただいています。これは今、毎年、行うようになっているのですが、北海道博物館の総合展示で使っている「アイヌ語ブロック」を使って、「本当に小さい子どもに、アイヌ語の作文や発音を」という形になっています。それから、「アイヌ語講座」の枠は、博物館としては平成30年度も設けています。今年度はちょうど企画テーマ展が物語をテーマにした形でありますので、それに合わせて、講座も物語にシフトをさせていただいて展開しているのですが、また来年度以降も、こういったアイヌ語講座の枠や、「ちゃれんが こどもクラブ」といった枠などで、御意見をいただいたような形でアイヌ語を勉強する機会を、増やせるものは増やしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

**関根委員：**今1年生の子はどんどん大きくなって、今、高校3年生の子はもう大学に行って、となるので、もう今すぐやってほしいぐらいの思いがあります。大々的ではなくてもいいのですけれども、週末などに職員が1人ついて、そこでカード遊びでも何でもいいのですけれども、幼稚園向けではなくて、高校生・中学生が来ても、そこに対応できるような教材をそろえておいて、やっていただけたらと思います。時間がないとは思うのですけれども、そのなかで誰か手の空いているひとはそこについてやるという感じで良いので、大々的に「やりますよ」というのではなくて、常時、普段の中で、対応できるようにしてやってもらって、アイヌ語にどんどん触れてもらいたい、というのが、私の思いです。工芸もちろん全部アイヌ語で、地名もそうですし、アイヌ語というのは最初のとっかかりの部分なので、そのあたりを歩いている子どもたちに、アイヌ語カードなどで「こうやって遊ぶんだよ」という感じで良いので、みなさんでやっていただけたら良いと思います。ぜひよろしくお願いいたします。

**澤田部会長：**よろしくお願いいたします。

#### 《質疑応答2 資料の収集・整備について》

**児島委員：**資料3「平成28年度事業実績」の13ページ、「資料情報の収集整備事業」というところで、9月に行われた第1回協議会での平成28年度の外部評価のところでも、問題というか話題だったのですが、博物館の基礎データ、一番基礎になる部分の「資料の収集・整備・所在調査」について御説明いただけることがあれば、よろしくお願いいたします。平成29から31年度で行う事業の計画ということですので、まだ始まったばかりとも言えますが、何か御説明があればということと、それから今申しあげましたように、博物館の基礎データですので、「これは絶対、予算をつけていただいて」ということを、要望として、本庁のほうにもお願いしたいと思っております。

**澤田部会長：**予算要望ということですか？

**児島委員：**少し説明があれば。

**小川センター長：**少し丁寧に説明させていただきます。平成28年度から平成29年度にかけて、新しく博物館で調査をしたり受け入れたりした資料がいくつかございます。ひとつ



は、先ほど平成 29 年度事業計画で少しお話をした「弥永コレクション」で、70 数点のアイヌ関係資料を受け入れさせていただいています。これについては、受け入れ時に担当の職員がある程度整理をして、基本的なデータは取って、という形で、展示にこぎつけております。それから平成 29 年度のところに載っている、「キーステン・レフシン資料」というのは、キーステン・レフシンさんというアイヌ語の研究者が残された、大変貴重な録音テープなどの資料を、御本人および関係の方々の御意向・御厚意で、当博物館に寄贈いただいたものです。今のところ、デジタル化をしたり、粗々タイトルを取ったりしたところが終わったところですので、これから 2 年ぐらいかけて、きちんと整理をしていきたいと考えております。それ以外は、まとまった資料をここ 1、2 年で収集したということはないのですが、ある程度のものについては、先ほど申しましたように、受け入れ時に基本的なデータを取って、報告できるものは『研究紀要』などに「今年度、こういう資料を新しく受け入れました」ということで報告をしたいと考えております。それから、たとえば巡回展などで枝幸町に行ったら、北見枝幸にあるアイヌの衣服について調査をさせていただいたり、あるいは羅臼町に行ったら、羅臼町にあるアイヌ関連資料の調査をさせていただいたりという形で、地元の教育委員会の方と協力をして道内の市町村の資料を調査をして、そのデータに関しては、地元と北海道博物館の両方で共有するという形で積み上げていきたいと考えております。今のところ、そういった「あそこで少し」「こちらで少し」というところですので、そこについては、また改めて予算をいただいて、調査結果をデータベースのような形で集約して広く提供できるような仕組みをバージョンアップできればと考えています。

**児島委員：**新しく受け入れる資料についての御説明だったような気がするのですが、確か 9 月の親会（第 1 回協議会）では、元からある資料の未整理分があるということが、とても印象に残っているので、それについても何かあるでしょうか？

**小川センター長：**過去、旧道立アイヌ民族文化研究センターだったときに受け入れた資料もたくさんありまして、先ほど少し名前を出しましたが、アイヌ語地名を調べた山田秀三さんという方の資料、それから主にアイヌ語や口承文芸などを調べた久保寺逸彦さんの資料などがございます。あるいは旧道立アイヌ民族文化研究センター時代に職員が各地に出かけて行って、いろんな方から話を聞かせていただいた録音テープなどがあって、確かにそこは結構大きな課題です。資料群全体の、割合の高いものでは 7、8 割ほど整理が終わったものもありますが、まだ 1、2 割しか手がついていないものもあります。そちらについても、ある程度、順番に聞き起こしをしたり、あるいは内容点検をしたりという形で、点検の終わったものから順番に公開するという流れを取り決めて進めてはいます。けれども、なかなか他の業務、特に博物館に移ってからは、毎日お客様がいらっしゃるなかで、そういった業務をどういった形で並行して行うか、どうこなすかというあたりが課題になっていますので、先ほど申しましたとおり、予算をいただいて、たとえば、専門業者をお願いをして進められるものは進めていく、あるいはいろいろな方と協議をしながらや

っていかなければいけない部分については、旅費の配当をいただくという形で、進み方が遅くなったところについて、もう一度スピードをあげたいと考えています。

### 《質疑応答3 ガバナンスについて》

**児島委員：**もう1点です。澤田さんと私は、親会に出席しているので、責任上、その親会で、とても印象に残っている点です。博物館の外部評価では親会の委員の方たちには、いろいろな評価があって、皆が同じような評価ができるところと、意見が分かれるところがあったのです。そのなかでも、皆が一致して評価が低かったのが、「ガバナンス」というカタカナになっているところです。これは、いろいろ御説明いただいたようなことをやっていくのにあたって、『『どういう順序でやっていって、どこからどこまで進んで行って』』というようなことを見ていったり調整していきます』といった、秩序だったやり方を実現していくための仕組みが、あまりよくできていないのではないかということだったと思います。それは、道庁との関係が入ってきますが、そのガバナンスは、どのように進めていくのでしょうか？

**小川センター長：**ガバナンスという言葉で、今お話があったのは、本当にてっぺんから行けば、本庁とこの博物館との関係です。「この博物館でこういうことを手当てしてほしい」、あるいは「こういうふうなことを進めたい」ということをどういう形で本庁に伝えるか。逆に本庁では、「全道庁的に見て、あるいは全道的に見て、こういう課題や要望がある」ということをどういった形で博物館に伝えるかということがあると思います。こちらについて、一朝一夕に、「こんな仕組みが新しくできました」ということはないので、なるべくお互いの連絡を密に取りながら、予算などについても話をしながら進めるということです。たとえば今年度は秋口、ちょうど予算要求にあたる時期に、単なる予算要求だけではなくて、事前に文化振興課の職員と博物館職員で一度、直接顔をあわせて、大きな課題については議論をする場を設けるという形で、意思疎通と言ったら一般的な言葉になりますけれど、なるべくそういうことを重ねようとしているところです。

それから、館内のガバナンスの進め方について、たとえばアイヌ民族文化研究センターという単位で物事をどう進めるかということについてです。この博物館のなかでは、アイヌ民族文化研究センターの職員も、アイヌ文化を研究するという職員の部分と、それから展示や、道民向けの広報などのサービスや図書室運営などという、博物館のなかでそれぞれの事業を担うグループと、2つ属しておりまして、普通にそれぞれの仕事をしていると、毎日お互いバラバラな日常を過ごすことになります。そこで、アイヌ民族文化研究センターとして定期的に集まりをもって、「作業上の課題や情報の交換をしながら、仕事の共有を進めましょう」ということを、これは前からやっていることですが、今年度に入って、少し意識的に、「毎週1回は必ず集まって仕事の進捗状況を確認しよう」ということを始めています。たとえば研究の進捗については、来週一度、研究紀要に向けた投稿状況の打ち合わせを行います。そういう意味では、少しずつではありますけれども、「これはここまで進

んだので、次の打ち合わせでは、これをここまでやりましょう」というように、やりっぱなしのものがそのまま残っていることなるべくないような形で、作業を進めたいとしています。「これで明日から安心」という返事ではないと思いますけれども、今のところ取り組んでいる限りはこのようなところです。

#### 《質疑応答4 国立アイヌ民族博物館との連携について》

**関根委員：**今のお話の流れのついでに聞かせていただきたいのですが、今、白老に予定されている国立博物館の準備室ができて、そのなかにもやっぱり研究職員がいるわけです。それで、こちらの職員との連携やつながりも聞きたい部分でもあります。また、白老に象徴空間ができたときに、やっぱり白老に行くお客さんもいるけれども、北海道博物館は、札幌を拠点にするお客さんたちに、アイヌ文化を紹介するという部分での「棲み分け」といいますか、こちらではどういう動きでやっていきたいなどあるでしょうか。お客様が全部が全部、白老に行ってしまうと、他の地域も困るという部分で、平取としても建物をつくるなど、いろいろな動きをしていますけれども、こちらのアイヌ民族文化研究センター、また北海道博物館では、白老にお客様がみんな行ってしまうないように、札幌を拠点に見るという部分で、どういうふうに考えているのかを、少しだけお願いいたします。

**石森館長：**ただ今の関根委員の御質問でございますけれども、私は今、国が進めております、白老の象徴空間の検討に関わる委員も務めておまして、少し私なりに感じているところをお話させていただきます。今の御指摘のように、国としては白老に拠点をつくるということで、その際の目標の一つとして、白老の象徴空間での入館受け入れの数が100万人ということが出ていますが、本来の目的はアイヌ文化の復興・継承・創造のための拠点であらねばならないということです。

そして、関根委員の御指摘のように、「アイヌ文化の復興・継承・創造」は白老だけの問題ではありません。本日も、この専門部会の委員は十勝からも、平取からも来ていただいておりますが、千歳、釧路、苫小牧など、それぞれの地域で様々な活動をなさっているので、白老は国としてのネットワークのための拠点であらねばならない。ですから、関根委員の御心配のように、決して白老だけで事足るということではありません。北海道内だけの問題だけではなく、関東なども含めた連携が必要であると、私も会議の場では、くりかえし言っていますが、「100万人集客」が第一義になってしまうおそれがあって、それ以外の問題、たとえば各委員が御指摘のように、アイヌ文化を、いろいろ記録にとどめ、それをきちんと専門家が資料として活かせるような形を作らないといけない、そういったものも含めての事業のはずなのです。ですから、関根委員の御指摘のような意見を、それぞれの地域から確実に出していかないと、「白老だけで事足れり」ということに、結果としてなりかねないところもあります。

それから、博物館同士のいろいろな連携、これも重要でございます。私どもの博物館としては、道内における中核的博物館としての役割もございますので、そういう点では、で

きる限り、道庁にも予算のお願いをしているところですが、これもなかなか思うように予算配分がないということもあります。ただ後ろ向きなことばかり言っているのも話になりませんので、私どもとしても、平取の博物館などとの、様々な連携も、できる限りは努力していきたいと考えているところです。各地から「白老だけじゃないんだ」というような御意見を強く出していただかないとなりません。今の流れで行くと、2020年4月24日開設、その前提として100万人を確実に集客しないとイケないということが、なんとなく第一義になりかねない危惧もありますが、私はやはり、アイヌ文化の復興・継承・創造のための拠点とネットワーク拠点を、きちんと形をつくっていかないと駄目なのではないかと感じています。

**澤田部会長**：よろしいですか？

**関根委員**：よろしいです。

**澤田部会長**：他にありますか？ なかったら、次に行きたいと思いますが、よろしいですか？

**委員**：はい。

**澤田部会長**：それでは、ただ今、御指摘等いただきました事項については、事務局で整理して、今後の博物館の事業運営に反映させるよう、よろしく願いいたします。

### **議題（3）今後のスケジュールについて**

**澤田部会長**：次に、議題3「今後のスケジュールについて」、事務局から御説明、お願いいたします。

**右代学芸主幹**：資料5を見ていただきたいです。

〈以下、資料5に基づいて、北海道立総合博物館協議会の今後のスケジュールについて説明〉

**澤田部会長**：ただ今の事務局からの説明について、御質問・御意見、ありますか？ スケジュールについて、何か質問、ありますか。

**委員**：ないです。

### **議題（4）その他**

**澤田部会長**：最後の議題、「その他」についてです。北海道博物館、アイヌ民族文化研究センターの事業、協議会の運営などについて、参考となるような話題・情報・意見等がございましたら、よろしく願いいたします。

#### **〈意見要望1 小嶋コレクションについて〉**

**中村委員**：新人の中村です。初めて質問させていただきます。私は千歳に住んでいるということもありまして、「小嶋コレクション」と言われる、支笏湖の民芸店「大和」さんから、

以前、博物館にコレクションということで、相当な寄贈があったと聞いています。それらの「小嶋コレクション」について、博物館で展示か何かをしたことあるのかという点を伺いたい。

**小川センター長：**小嶋コレクションについては、旧開拓記念館の、本当に最後のときですけども、受け入れてすぐのころに、当時の職員が展示をさせていただいています。実は、そのとき登録漏れをしていたものも結構ありましたので、その後、さらに追加で、ある程度登録をさせていただいています。追加で登録させていただいた分について、展示はまだ行っておりませんので、先ほど申しました、いろいろな展示の機会でご紹介できればと考えております。

**中村委員：**小嶋コレクションという膨大なアイヌの資料が寄贈されていると。この小嶋コレクションの寄贈者である、先代のお父さんは、函館で海難にあったとき、自分は古物商をやっていたけれど、古物商の大事なものを置いておいて、アイヌの民具を一番早く引き上げ、保護した、という経緯のお話を、僕は聞いているのです。それで、旧開拓記念館のときに、1回展示はしたけれど、追加もあるということで、この小嶋コレクションに対して、再度展示を願いたいのが1点。それから、これほど膨大な民具を寄贈しているということにあたって、僕は、北海道文化賞くらいに当たるのではないかという気持ちを持っているのです。それとあわせてアイヌ民族の理解も含めて、この小嶋コレクションの評価を、表彰ということを提案したいと思っております。この2点。以上です。

**澤田部会長：**はい、事務局、これからの展示と、道の文化賞はどうなのかも含め、少しお願いいたします。

**小川センター長：**新しく受け入れた資料も含めまして、先ほど申し上げましたように何らかの形で、きちんと展示する機会をまた設けたいということと、それから何らかの形でこういった功績にお応えするような方法を考えていく、この2つ、承っておきたいと思いません。

**中村委員：**よろしくをお願いします。

**澤田部会長：**そのほか、御意見・御質問等、ありますか？ なければ、よろしいですか？

**委員：**はい。

## 6 閉会

**澤田部会長：**最後に事務局から何かありましたら、お願いします。

**右代学芸主幹：**この専門部会が終了した後に、企画テーマ展「弥永コレクション」の展示をぜひ見ていただきたいと思っております。御案内いたしますので、みなさん、ご覧いただければと思っております。以上です。

**澤田部会長：**はい。それでは本日の専門部会はこれを持ちまして終了させていただきます。皆様、お疲れさまでした。